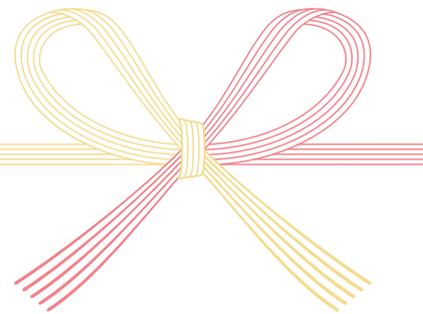


「賞状」について【その1】



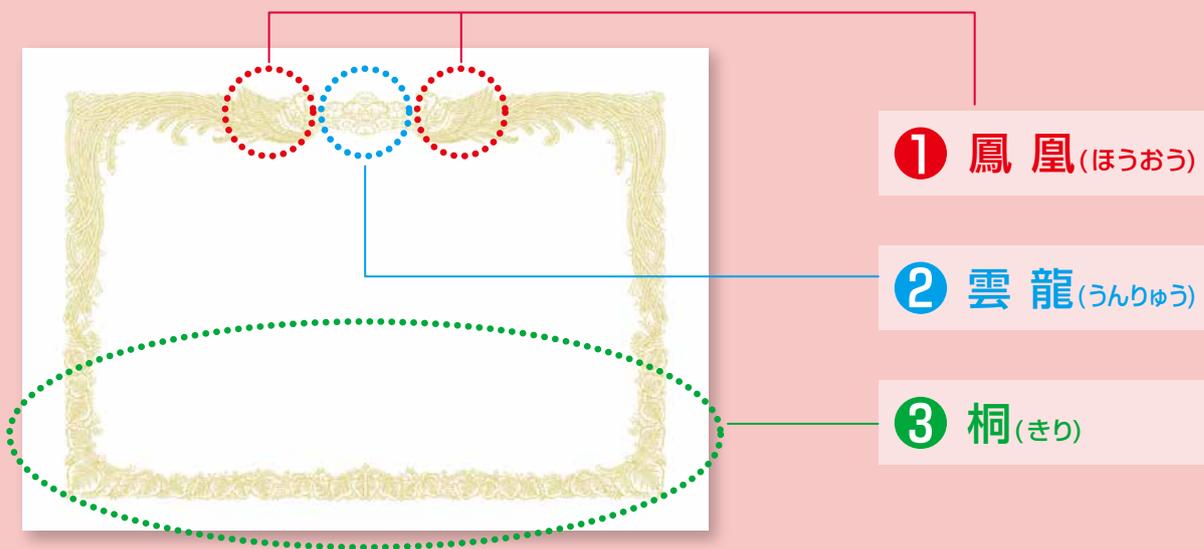
■賞状用紙の発祥

発祥は中国にあると言われていいます。

中国の「正式な人事発令」や「褒章に用いた書状」の飾り縁に「鳳凰」の図柄が用いられていたものと、日本の「宮中行事の神文」に用いられていた「桐」とが合体したものが現在の賞状用紙のデザインの起源となったようです。

宮中など「一部の公式行事」に使用されていたものが、明治以降の近代に入って「官公庁の正式行事」に用いられ、次第に一般庶民にも使い伝えられるようになり、現在に至っています。

■賞状用紙の構成と由来



① 鳳凰(ほうおう)

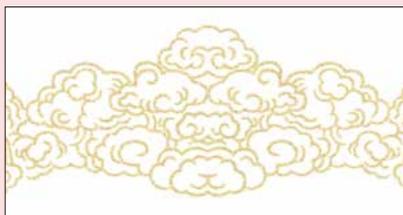
② 雲龍(うんりゅう)

③ 桐(きり)



① なぜ鳳凰(ほうおう)なのか？

「鳳凰」は、古代より近世の中国における宮中行事において用いられ、非常に尊く大変目出たいとされた四瑞(龍・亀・麒麟・鳳凰)の一つ「想像上の瑞鳥」です。



② なぜ雲龍(うんりゅう)なのか？

「雲龍」は、本来は雲と龍を合わせもって呼ばれますが、鳳凰と同様に四瑞の一つである龍とともに雨を呼ぶ「幸運の雲」で、その雲についても「雲龍」と言って尊ばれています。



③ なぜ桐(きり)なのか？

「桐」は、原産国である中国では古来より「鳳凰が宿る尊い木」とされ、また「鳳凰は朝日を浴びた桐の葉の光に目覚める」とも言い伝えられ尊く目出たい植物とされています。

■ひとくちMEMO

「鳳凰」は、夫婦仲が大変良く一生涯を連れ添うと言われ、雄を「鳳」、雌を「凰」と言い分け、夫婦あわせて鳳凰と呼ばれています。賞状用紙では、向かって左側の「鳳」と、右側の「凰」が向かい合っている形にデザインされています。

